



私は外での(犬の世話)仕事をしているので、今回研修でお世話になった DOGSTRUST の現場の状況をレポートさせていただきます。

まず最初に、どうやってケンネルスタッフになれるのか。DOGSTRUST のスタッフになるには、面接はもちろんのこと 6ヶ月の研修期間があり、研修インストラクターと共に机上で研修します。DOGSTRUST の方針や、組織の説明、規約など、この団体の一員になるために必要なことをすべて理解したうえで仕事が始まります。

また、どのような人たちが働くのでしょうか。スタッフとボランティアで仕事をしています。スタッフたちは若い方から年配の方までいますが、犬の世話などは比較的若いスタッフ(20代から30代)が目立ちます。勤務時間は8時から17時です。ボランティアは仕事をリタイアされた方が多く、週2、3のペースで来ます。ボランティアと一目見てわかるように、服にはバッジをつけてお手伝いをします。

さて、仕事内容とは何かというと、ケンネルスタッフは1人約10前後の犬たちの世話をします。

(ちなみにネコはいません)散歩、えさやり、掃除、犬のケアなどです。驚いたことに、散歩中、犬はみなマズル(口輪)をつけていました。理由を聞けば、特にないということでしたが、犬たちが加える危害の軽減のためだと思われます。

私が一番興味深かったことは、犬舎のデザインです。ユニークな犬舎が沢山あり

ました。すでに建設されていないとおっしゃっていたパラソルケンネルは、上から見るとパラソルのような形で、中心から対角線上に区切られて個室になっています。外を見渡せて、両サイドの壁はコンクリートなので犬同士が吠えあうこともありません。そして、ガラス張りの犬舎は非常に見えやすく、気に入った子をすぐに見つけられそうです。吠える声もガラスでおさえられ、防音効果もあります。掃除の機能的さといえば、とてもすばらしく、排水などきっちりしています。そして墓地も設備されています。人間と同じように、花を飾り、ネームプレートやそのことが好きだったおやつやおもちゃを供えて、亡くなったあとも温かく見守っている……そんな気持ちが伝わりました。

犬の運動場にも驚かされました。見学したシェルターによって広さの違いもあるのですが、とにかく広いです。「今、犬が DOG Exercise Area(運動場)にいますよ」と言われ見てみると、私たちの距離からは犬と人は米粒にしかみえないほどの大きさ。広すぎて唖然としました。イギリスに到着してまずシェルターを見て最初に感じたのは、牧場のように広い

…!!!羨ましいことに、イギリスは、日本のように山々に囲まれた地形ではなく、どこまでも、平地が続く地形で、シェルターは広大な土地を簡単に確保することができるのです。

マイクロチップを挿入するところも実際に拝見することができました。マイクロチップは日本ではまだなじみの少ないものですが、大変重要なものです。万が一犬が家から逃走しても、マイクロチップを埋め込んでいれば、逃走中、首輪が抜けたりしたとしても体内に迷子札があるので、捕獲されたときに、すぐどここの誰それさんと、探しやすくなります。私は今までマイクロチップの挿入を見たことがなかったのですが、チップを埋め込むということなので、痛そうに見えましたが、案外予防接種の時のように、一瞬でことが終わりました。犬も、なにも感じてない様子でした。DOGSTRUST では、約2000円でマイクロチップを受け付けています。見学当初も一般の方がマイクロチップの挿入をお願いしにいらしていました。日本でも動物病院などでマイクロチップ登録を行っているところがありますので、迷子札が不十分な方は、是非お勧めいたします。

アークも時々、マスコミの取材をうけますが、私たちが滞在していたときも、TVクルーの姿をみました。丁度、年に一度のビッグイベント犬のドッグショー“クラフツ”が開催されていたので、それもあってマスコミの方がよく来るんですか?と尋ねると、「今の時期だけじゃなく、よく取材に来て、テレビのニュースなどで放送されているよ」とおっしゃっていました。次の日の朝、テレビをつけるとニュースで DOGSTRUST で保護された8匹のダルメシアンの子犬を募集する内容が報道されていました。イギリスは動物のニュース(ペット事情)に敏感で、些細な事柄も、国民が注目していて、協力し合っているのがとてもすばらしいと感じました。

DOGSTRUST はイギリス17ヶ所にシェルターを持つ大きな組織です。ですから犬が里親にできるチャンスを多くするために、工夫されています。1年以上は同じシェルターにいないよう、1年里親さんとの縁がなければ、次に別のシェルターに移され、里親にできる機会をつくります。そうやって去年のリホーム頭数は、なんと10,367頭という驚かされる数字。私たちが滞在していた1週間の間にも毎日毎日犬は幸せな家庭を見つけていました。

「土日にはこの駐車場が里親希望の人の車でいっぱいになって、まるでスーパーマーケットのようさ」と笑顔でおっしゃってたのが印象的でした。

私たちは、シェルター見学以外にも、すばらしい経験をすることができました。先ほどもでてきましたが、年に一度の犬のビッグイベント“クラフツ”への参加です。世界中から、いろんな技をもった犬やめずらしい犬が集まり、まさに犬

